

ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局：大代地区公民館 ☎364-8442

流灯・花火大会を終え

大会当番区 中区長 小野 菊郎

大代地区では、江戸時代から続けられていた伝統のある慰霊祭ですが、今年には台風の影響で風が強く心配されました。その風も夕方には幾分弱くなり、流灯流し、花火打ち上げなど、皆様方のご協力を頂き盛会のうちに終了することができました。

今年は、昨年にもまして、多くの方々からご焼香を賜り厚く御礼申し上げます。

今回は、流灯を新しく木と竹で作り、子供会の子供たちに、ビニール袋に絵を書いていただき組み立てました。

強風と波が高く困難なこともありましたが、花火は、新型のものが上がり大変好評でした。今年は初めての試みとして「二三会」様のご協力により、橋の歩道上で盆踊りを踊って頂きました。限られた場所と時間などの制約がありますが、継続することが出来れば慰霊祭に花を添えられのではないかと思います。

今後は、これまでとは少し形を変えて流灯を岸辺に置くとか橋の上に並べるとか、また、地区の方々から流灯を作って頂いて飾るなど、区民の多くの方々の参加をいただき、昔ながらの手作りで素朴ながら味わいのある、流灯・花火大会にしていくのも一考ではな

あいさつは心のふれあい

出会った人と

あいさつしましょう

いかと存じます。

終わりに、例年ご協力を頂いております交通指導隊、消防団、子供会育成連会、海苔業者、駐在所、加藤渉様を始め、関係各位に心から感謝申し上げます。



黄色いハンカチ

大代南 跡辺 孝志

今年の夏は長く暑かったですね。

盆の行事が済み、心なしか爽やかな風が吹いております。二十日盆。御霊を送る流灯流しの行事、華やかに花火が上がり、翌日は自衛隊でのお祭り。

ここでも花火に屋台と、残り少ない夏を多くの方が楽しんでおりました。

気が付いた方も多かったと思います。自衛隊の正門には、黄色いハンカチがなびいておりました。遠くイラクのサマーワの仲間に、隊員が思いを込めて飾った黄色いハンカチです。古来

イギリスでは、黄色を身につけると、身を守ることができるの言い伝えがあります。ご存知のアメリカ映画・ジョン・ウエイン主演の「黄色いリボン」では、愛する人の戦場での無事を祈る象徴として登場していました。

今「陸・海・空」と多くの自衛官が、イラクの復興支援に派遣されています。イラク派遣については賛否両論がありますが、あのイラクで危険な任務に就いている方の中には、教育期間をこの多賀城で過ごし、共に夏祭りを楽しんだ隣人もいたことと思います。

第二次大戦では、宮城県の第二師団は、遠くガタルカナルで戦い、多くの宮城県人が帰らぬ人となったそうです。私の伯父もその一人でした。

御霊をお迎えし、送る盆の行事。祭りのゲートに飾られた「幸せのりボン」の言い伝えを、私も子を持つ父として、派遣された隊員や留守家族を守る家族のご心中を察し、複雑な心境で仰ぎ見た次第です。

皆さんは「休日」をどのように過ごされているのでしょうか。日本ではホリデーといふことばを使いますが、英語の辞書を見ると、聖日、祝祭日と訳してあります。この意味から「神聖の

休日の意味

大代東 本郷 新治

皆さんは「休日」をどのように過ごされているのでしょうか。日本ではホリデーといふことばを使いますが、英語の辞書を見ると、聖日、祝祭日と訳してあります。この意味から「神聖の

日」と解されます。心身を休憩させる宗教上の聖日、すなわち魂の洗濯日といえます。ところが私達はホリデーの精神というよりも、休日になれば羽をのばして、肉体だけの楽しみに、つい癒していることが多いように思えます。

日本でも、昔から休日といえ、お彼岸にしても、お盆にしても、それぞれ宗教上の意味があったようです。またレクリエーションというところ、どこかにハイキングに出かけることのように受けとられていますが、これも正しくは、エネルギーやスタミナの「再創造」ということではないでしょうか。

日曜日に遊びすぎて月曜日にまで疲れが残るようでは、正しいレクリエーションといえません。このように考えてみると、私達日本人は、休日の過ごし方や考え方が欧米人とは少し異なっているように思います。

今日のように、めまぐるしく移り変わる環境等の変化に対処して、私達は一週間仕事また仕事で、精神的にも肉体的にも全精力を出しきっています。

休日にこそ、社会人として必要な教養を高めるための読書とか、明日からのスタミナを蓄えるための運動など、再び仕事の成果をあげるためにスタートできるような心身の回復を図らなければならぬと思います。

このことから、いま一度休日の過ごし方について考えてみましょう。

休日にこそ、社会人として必要な教養を高めるための読書とか、明日からのスタミナを蓄えるための運動など、再び仕事の成果をあげるためにスタートできるような心身の回復を図らなければならぬと思います。

ご祝儀 お見舞いは

三千元を限度にし

お返し物はしなないようにお互い気を配りましょう

日本への帰路 (No.二十七)

大代南 後藤 清一

列車は動いたり、停まったりを繰り返して走り続け、ゆっくりかと思うと、急にスピードを上げて走る。「ハバロフスクも過ぎれば、船が待つナホトカまであと一日か二日位だろう。」と、時々現在地を教えてください物知りな人もいた。皆の心も次第に弾んだ。貨車は丘を下り、登りに入ると急にスピードが落ち、平地に入った時、速度は全く落ち力盡きたようにガタンと大揺れして止まった。

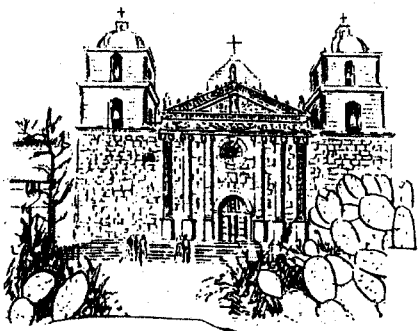
明らかに此処が鉄道の終点のようだ。外は正午を大分過ぎている。

ホームには、日本人そっくりの人々が群がっていたが、彼等は我々を「捕虜」呼ばわりはしなかった。貧しい身なりで、物静かで生氣もない老若男女、彼等もドイツとの苦しい戦いで悲劇を味わった方も大勢居る筈だ。収容所の現地で、お世話になった彼女等も、その陽焼けた顔に刻まれた深いシワは、ひとつ一つが彼女たちの苦しかった人生を物語っているのかも知れない。民族は違っても戦争に泣かされる者の悲しみは皆同じ、戦争は勝っても負けても人々の心に痛い傷跡を残すものである。

重い扉が開き、我先に飛び出す者、手足を伸ばし外気を一杯吸いこむ者、私は未だ変わらずに、ギブスを右手を

吊したままである。何時どんな処置をすべきか見当もつかない。ナホトカも近いのか、海は見えなかったがそんな雰囲気がある。ラーゲルを出てから二十日程経っている。長い旅であった。銃を構え民主同盟の腕章をつけた奴等は、俺達にすり寄り、「お前ら、これまで生かされて来た恩を感じている者は一人もいないのか!」と物乞いのようなのである。誰だって私物など何一つ持っていない。こんな奴等の振る舞いに呆れてしまった。彼等の自動小銃は何時俺達に向けられている。「なんだ。この車内の汚さは何事だ。これまで多くの帰還者がやってきたが、お前等最低だぞ。貴様らはこの偉大なスターリン閣下の元で一体何を学んできたのだ!」

更に、彼等はこう言いつづけた。「もう日本は負けたのだ。軍隊は解散され、上官も兵もいない。熱心に共産民主国家の為に働いてみせないと絶対に帰さないぞ!。日本はもうお前等を必要としないのだ...」と。



文芸短評

大代西 藤田遊子

『藻の花や今水中も光充ち』寺井谷子
地味な水草が、ようやく小さな花を咲かせ、湖の中にも光が一杯だ。

謙虚に自分を水草に置き替え、今幸せの頂点に居る、と人生を詠んだ。絶賛。十歳から俳句を始め五十年。平成四年第三十九回現代俳句協会賞受賞。現在『自鳴鐘』編集長。NHK俳壇選者。深い知性と斬新な感覚で詠む俳句には、何時も作者の人生観がみえる。

『廃校の百葉箱や草茂る』遊子

俳句

大代西区 松浦 富男

入院の荷づくる肩に送り梅雨
天空の青の凝結露草は
青梅をかじる少年恋初めし
合歓の径始発電車の軋しり音
独り居て音の響宴遠花火

笠神西区 本郷 勝子

かなかなのなかなかなかず昼さがり
山間に夫婦にあらず鳥兜
青空に悠々自適鬼やんま
邂逅の瓜揉む手つき母に似て
夏の月飯豊連峰照らしけり

短歌

大代南 本郷 貞子

乙女等も広島に多く逝きにけむ
ノーゼンカツラ揺れて八月(原爆)
大代西 小倉 紀美子
バイクでの女性郵便配達員
置きし手紙が汗に湿めいる
大代西 佐藤 あさよ
口笛を吹きつつ孫ペタル踏み
青田の風うけ畦道走る

大代地区敬老会のお知らせ

お知らせ

☆ 大代南 九月十二日(日)

秋保温泉 欄亭

☆ 大代東・中・西 九月十九日(日)

十一時〜小野屋ホテル

☆ 大代北 九月十二日(日)

北区集会所(主催)・区・育成会

十一時〜

おじいちゃんおばあちゃん
いつまでもお元気で

